

三重病院ニュースレター

9
2009

NEWS LETTER vol.121

	栄養室からの提案「朝食をしっかりとろう」	1ページ
	朝食献立例／今月の植物を探せ!vol.5／今月のイチオシ図書	2ページ
	子どものキケンな症状／「糖尿病教室9月」のお知らせ	3ページ
	外来からのお知らせ／アレルギー教室のクッキング／外来診察のご案内	4ページ

いよいよ新学期ですね。 遅かった梅雨明けに、新型インフルエンザの流行、といつも「夏」を感じる間もなく始まってしまった秋。でも、からだだけは夏バテしている、どうも調子が出ないという方……今月は

栄養室からの提案 「朝食をしっかりとろう」です

朝食が大切なこと

太陽が出るとともに目覚め、太陽が沈むと眠るという生体リズムが私たちの体には、組み込まれています。この生体リズムを崩さないことが、健康と体調を保つのに一番大切なことです。そのためには、早起きと朝食が不可欠です。最近の調査によれば、20代男性の3人に1人、女性では4人に1人が朝ごはんをしっかりと食べていません。朝食は脳の働きとも深い関わりがあります。朝食を食べずにすませてしまうと、脳のブドウ糖は不足するため、集中力が持続せず、仕事や勉強に影響が出てしまう可能性があります。また、前日の夜から翌日の昼まで12時間以上も絶食になってしまふと、低体温が続き基礎代謝も低下してしまいます。その上昼食や夕食時に飢餓感が増してついつい食べ過ぎてしまふし、食事回数が少ないがために少しでも多く栄養を蓄えようと太りやすい状態になってしまいます。

朝食をちゃんとちゃんと食べるには

- *前の日の夕食は、就寝3時間前には済ませ、寝る前には食べない。
- *10分でも早めに起きて、食べる時間を作る(って、なかなかできませんが……)。
- *朝食の習慣が途絶えてしまっている場合は、あたたかいカフェ・オーレとフルーツとか、シリアルと牛乳とフルーツとか、手軽に用意できるものから始めて、朝の行動パターンに組み込む。
- *ご飯食で味噌汁の味噌を溶かすのが苦になる場合は、インスタントの味噌汁に一つかみの乾燥ワカメをプラスしてもかまいません。最近はダシも一緒に練り込んであるチューブタイプのすぐ溶ける味噌が開発されています。それに乾燥ワカメとか豆腐の具をしっかりと入れてもらえば、インスタントよりも充実感があります。

朝食をとるリズムができてきたら、内容に注目しましょう。まずは「主食・主菜・副菜」の黄金トリオがそろっているでしょうか?毎朝手間をかけて朝食をこしらえることは正直大変です。休みの日や(まんまと休みたいけど……)、ある程度まとまった時間があるときに野菜やキノコを切ったりゆがいたりして、一食分ごとに小分けして冷凍バックに保管するのがオススメです。油揚げだって切って冷凍保管できます。自分で下準備した野菜やキノコ類を味噌汁やスープの具にしたり、さっと炒めたりするのは、さほど苦にならないものです。自分で工夫し、作りはじめてみると、段々とレパートリーが広がっていきます。是非、お試しください。



朝食を食べる楽しみ・
作る楽しみを見つけよう



次ページに
献立例あります
(栄養室 南川 聰)